

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 7 年 2 月 28 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3890500394
事業所名	グループホーム 集い
(ユニット名)	歓
記入者(管理者)	
氏 名	白石 貴大
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 3 日

(別表第1の2)

【事業所理念】 「心からうれしく心から歓びあえる 楽しく和やかな 処」	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 「日常的な外出支援」・・・初詣や花見など可能な範囲での外出支援を行うことができた。 「本人を共に支え合う家族との関係作りと支援」・・・事業所の運営上の事柄や職員異動状況は運営推進会議の資料にて行っていたが、今後は写真付きのボードなどを用意しより見やすいものを作っていく。 「災害への備え」・・・年2回の消防訓練を実施(1回は消防署立ち会い)家族様や運営推進会議にて訓練の様子を写真で説明できた。 「理念の共有」・・・事業所の理念について運営推進会議などで報告は行っていたが、まだまだ共有という段階まではできていない。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、新居浜市内の見晴らしの良い新興住宅地の近くに立地している。平屋建ての事業所と同じ敷地内には、法人の小規模特別養護老人ホームなどが併設されている。毎月、工夫した行事を開催したり、季節の花を見に行ったり、事業所の家庭菜園で育てた野菜を利用者と一緒に収穫をするなど、利用者が生き生きとした楽しみや喜びのある生活を送れるよう支援している。また、地域の中学生のボランティア体験や合唱部の訪問を受け入れるなど、盛んに利用者と学生との交流も図られている。さらに、地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、市内にある社会福祉法人と一緒に、イベント時に相互交流を図ったり、自治会の祭りの手伝いをするなど、地域や関係機関との交流も図られている。感染対策が続き、家族との面会は一定の制限が設けられているものの、家族と一緒に外出や外食をすることも可能としている。毎月、お便りを家族に送付したり、ホームページ上に行事の様子を掲載したり、運営推進会議の会議録を送付するなど、積極的に事業所の活動や利用者の様子を伝えている。加えて、職員は働きやすさのほか、研修でスキルアップを図れる体制もあり、長年勤務する職員も多い。
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前の情報収集や日々の関わりの中で把握するようにしている。	○			入居時に、管理者と介護支援専門員と一緒に利用者や家族と面談を行い、思いや暮らし方の希望、意向を聞き、アセスメントシートに利用者と家族の希望等を記録している。また、日々の生活の中で、新たな情報を聞くこともあり、記録に残すとともに、毎月のユニット会で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	関わりの中で本人の表情や様子から検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時や施設訪問時にお時間をいただき情報共有をしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	毎月のユニット会で情報共有し記録を残している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	関わりの中での発言や表情、行動について毎月のユニット会で話し合いを行っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の家族様とのカンファレンスや面会時にお時間をいただき話し合いを行っている。			◎	入居時に、管理者と計画作成担当者が自宅等に訪問し、生活歴や馴染みの暮らし方、既往歴等の聞き取りをしている。入居前に利用していた介護サービス事業所や介護支援専門員からも、サービス利用の経緯や状況等の情報を収集している。生活歴や趣味、得意なことや生きがいなどの情報は、フェイスシートに記録し、職員間で共有している。事業所では、導入済の介護ソフトに記録を残すとともに、科学的介護情報システム(LIFE)の活用に向けて、改めて利用者の情報を整理している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	関わりの中で把握している。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	関わりの中で把握している。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のユニット会で検討している。			○	事前に、利用者や家族から希望等を聞くとともに、アセスメント情報や把握した情報をもとに担当者会議で話し合い、利用者の課題やより良い支援を検討している。また、話し合われた内容は、担当者会議録に記録を残している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	毎月のユニット会で検討した内容について話し合いを行っている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	昔からの生活歴をもとに現在できることを継続していけるような内容になるように努めている。				利用者や家族の希望のほか、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員間で課題や必要なサービス内容を話し合い、計画作成担当者を中心に、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	状態変化があった際はご家族に連絡したり面会時に話し合いを行っている。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	現在重度の方は入居していないが、皆様に安心した生活を送っていただけるように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	現在ご家族を含めてのイベント等は開催できていないが、ボランティアや他法人との合同イベントを実施している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護記録で使用しているタブレット端末にて情報共有を行っている。	/	/	◎	介護ソフトに介護計画が入力され、パソコンやタブレットを活用して、いつでも職員は計画を確認できるようになっている。また、計画のサービス内容の実施の有無は、日々のケア記録に入力し、状況を把握できるようにしている。また、3か月に1回モニタリングを実施して、利用者の現状を確認するとともに、毎月のユニット会で、計画の内容や利用者の状態などの話し合いをしている。訪問調査日には、モニタリングの記録様式に、記録が残されていないものも見受けられたため、記録の漏れをなくすとともに、職員間で共有し、より良いサービス提供に繋げていくことも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	タブレット端末にてケア記録や申し送り機能を使用して行っている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月のユニット会で都度見直しを行っている。	/	/	◎	3か月に1回、モニタリングの実施と介護計画の見直しをしている。毎月のユニット会の中でも、介護計画の内容が、利用者の現状に即しているかどうかの話し合いもしている。また、利用者の状態に変化が見られた場合には、必要に応じて計画の見直しや変更をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のユニット会で確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院があった場合等は家族様や病院関係者と話し合いを行い見直しを行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月のユニット会または緊急の際は都度話し合いを行っている。	/	/	◎	月1回ユニット会を開催し、利用者の現状や課題を話し合うとともに、職員間で情報を共有している。会議には、なるべく多くの職員が参加できるように、事前に開催日時を調整している。また、参加できなかった職員は、会議録や申し送りノートを確認してもらい、職員間で共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	毎月のユニット会では現在活発な意見交換ができています。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	各ユニットごとに出勤者の多い日や参加可能な職員が多い日を話し合いながら日程を決めている。参加できない職員に対しては会議録や申し送りノートを通して情報共有を行っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	タブレット端末と申し送りノートを活用し情報共有を行うとともに職員間でコミュニケーションを取り合いながら情報伝達を行っている。	◎	/	○	日勤と夜勤の勤務交代時に、申し送りノートやタブレット上のケア記録を活用して、申し送りを実施している。出勤時等には、全ての職員が申し送りノートを確認し、確認後にチェックを入れる仕組みが構築され、確実な情報伝達に繋がっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	関わりの中で入居者の方から希望がある際は希望に添えるように努めている。	/	/	/	職員は、利用者の自己決定や選択を促せるような支援に努め、自分で着る服などを選ぶ利用者も多い。自己決定が難しい利用者には、職員が付き添って、選びやすいような声かけやサポートをしている。毎日実施するレクリエーションの内容も、職員は利用者へ声をかけ、やりたい工作などをできるようにしている。また、利用者の好きな家庭菜園での野菜栽培や読書など、生活の中で継続できるよう支援している。毎月実施する行事は、職員が楽しいイベントを考え、外部からのダンスなどのボランティアを受け入れることもあり、日々の利用者の楽しみや喜びにも繋がっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。（選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等）	◎	外出行事や入浴の際等に着用したい衣服を自己決定していただいたり、日課の体操の参加に関しても声かけにて自己決定してもらっている。	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。（起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等）	○	都度臨機応変に入居者の方の希望を聞きながら支援している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情（喜び・楽しみ・うるおい等）を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	普段の関わりの中で入居者の方が少しでも笑顔になれるような言葉かけを行っている。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	関わりの中で表情や動作、行動を観察し意向に沿った暮らしができるように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。（人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等）	○	丁寧な言葉かけや排泄等のプライバシーに関わることは周りの状況に気を遣いながら意識して行動している。	◎	○	◎	内部研修の中で、人権や尊厳等を学び、職員は意識した対応をしている。日頃から、管理者とユニットリーダーは職員への言動に注意を払うとともに、気になる言動が見られた場合には、該当職員に注意喚起をしている。また、居室に入室する際には、事前のノックや声かけを徹底し、訪問調査日にも調査員が居室を見学する際に、管理者から利用者へ声をかけてから一緒に入室し、利用者自らが説明してくれる場面が見られた。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入居者の方の自尊心を傷つけないような声かけやトイレ誘導排泄チェックを行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入りの際は、必ずノックと声かけを行っている。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入職時に説明を行い、同意誓約書をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	入居者の方が今できていることを把握し、生活の中で自分ができることは自分で行い、生活リハビリを行っている。				職員は利用者同士の関係性や性格に考慮しながら、毎月席替えをしたり、利用者が孤立しないように声をかけたりするなど、穏やかな雰囲気の中で生活を送れるよう支援している。また、食後に他の利用者のお盆を下膳したり、車いすの利用者を押したりするなど、職員は危険のないように見守りをしながら、助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	座席の配置等を考えながら、入居者の方々が共にコミュニケーションをとりやすい環境作りを行っている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	都度入居者の方の状況に応じた座席を考え、孤立しないように声かけや誘導を行っている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが発生しそうな場合は、職員が間に入りトラブルに繋がらないように努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前のご家族との話し合いや担当ケアマネージャーからの生活歴等の情報提供で把握している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	面会や外出等を積極的に行えるように支援している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	季節や天候を考慮しながら散歩や日光浴を行っている。イベントとして花見やドライブにも行っている。	○	△	◎	各ユニットで、車いすを使用する利用者も一緒に、季節に応じて花を見に行ったり、法人の車を使用して、初詣等に出かけたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。日頃から交流のある市内の社会福祉法人との相互交流があり、イベント時に喫茶を開催する際に、利用者も一緒に出かけて、お茶の時間を楽しんでいる。また、日常的に敷地内の駐車場を週に数回散歩したり、家庭菜園で野菜を育てたりすることもある。中には、家族と買い物や外食等を楽しむ利用者もいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	面会時等に外出支援をすすめている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	毎月のユニット会で話し合いを行いながらケアの方針を決めている。				職員は利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握し、できることは自分でしてもらい、見守りやできない部分のサポートをしている。状態の変化等があれば、随時介護ソフトの利用者の情報を入力するとともに、職員間で情報を共有している。その時々の利用者の状態により、できることに違いはあるものの、職員はなるべく利用者の残存能力を活かして、職員が必要以上の介助をせずに、見守りや声かけを行い、心身機能の維持や向上を図れるような支援にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	入居者の方のできる力を維持するために、できることは自分でしていただくことで生活リハビリに取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	毎月のユニット会で話し合いながらできることの把握と共有を行っている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	入居者の方全員に役割を持ってもらうことはできていない。				洗濯物たたみや食器の下膳、ほうきでの掃き掃除、テーブル拭きなど、職員は声をかけ、得意な役割や好きな出番を担えるよう支援している。手伝ってもらった後には、職員は利用者に感謝の言葉を伝え、やりがいや喜びに繋げている。また、ユニット会で話し合い、利用者がどのような役割を担えるのかを検討している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	毎月のユニット会で話し合いを行っている。	◎	○	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	起床時や入浴時に衣類を選んでもらっている。 身だしなみについても入居者の方が可能な範囲で化粧や髪の設定をしていただいている。	/	/	/	整容の乱れや衣服の汚れが見られた場合は、利用者のプライドに配慮しながらさりげなく声をかけてサポートをしたり、居室に移動して、着替えてもらったりするなどの対応をしている。訪問理美容の来訪時に、好みの髪型に整えてもらっている。また、居室にある洗面台の鏡を見ながら髪を梳いたり、電気シェーバーで髭を剃るのを手伝ったりするなど、身だしなみを整えられるよう支援している。中には、好みの化粧水等を使用する利用者もあり、おしゃれや身だしなみなどの習慣を継続し、本人らしさが保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	訪問理美容時などに入居者の方が髪型などを自分の希望で決めることができるように支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	入居者の方が理解しやすい声かけを行い、表情等から本人の気持ちをくみ取りながら支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	入居者のご家族が持参されている服の中から、季節に合った服を職員が何種類か選びその中から本人に選ぶように支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	◎	入居者の方のプライドを傷つけないように個別に声かけや更衣を行っている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	委託している訪問理美容にて行っている。 家族様の協力と入居者の方の希望がある場合は対応可能。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	起床時やトイレ後などユニット内の鏡前にお連れし自分の姿が見られるように支援している。	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員が入居者の方と一緒に食事を召し上がることで食事の一連のプロセスや大切さを理解している。	/	/	/	毎食、同敷地内にある法人施設の厨房で調理された食材が事業所に届けられ、炊飯や盛り付けを行い、利用者に食事を提供している。夕食時の汁物はユニット内で作っている。法人の栄養士が献立を作成し、季節を感じる旬の食材や、季節のクリスマスやおせちなどの特別メニューを取り入れている。また、ひな祭りや誕生会の行事の際には、厨房からの食事を止めて、ユニット内で職員が調理し、お好み焼きや餃子を利用者と一緒に作るなど、利用者に喜ばれている。さらに、敷地内にある家庭菜園で利用者と一緒に栽培や収穫した旬の野菜が食卓に並ぶこともある。食物のアレルギーやきざみ食等の食事形態は、事前に把握し、利用者の状態に合わせて対応をしている。食器類は、自宅から持参した使い慣れた物のほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、職員は利用者と一緒に同じ食事を摂りながら、見守りや食事介助をしている。リビングの壁面に献立が掲示され、リビングに面しているキッチンから、利用者の食事の準備などの雰囲気を感じることができる。加えて、献立の栄養バランスや食事内容について、月1回の給食委員会で話し合い、栄養士に意見等を伝えることもできる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	入居者の方ができる範囲で食器の準備や後片付けを行っている。	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	毎月のユニット会で話し合いを行い、入居者の方の残存機能を維持できるような支援を行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居の際の情報収集で把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	委託している給食会社により献立は作成されている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等）	◎	入居者の方の状態に合わせた食事形態で提供している。 盛り付けも職員が毎食丁寧に行っている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みの食器や湯呑みをなるべく持参してもらうように促している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	食事の際は各テーブルに職員が座り、介助が必要な方には随時対応を行っている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ユニット内に献立を掲示したり、食事介助の際に食材を伝えながら介助を行っている。	○	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養バランスやカロリーについては委託している給食会社の栄養士が献立を作成している。水分については職員が声かけ促しを行っている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	常に把握し、声かけ等を行いながら提供している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	委託している給食会社の栄養士が献立を考えている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	手指のアルコール消毒やテーブルの除菌を毎食前に行い、調理用具についても食器乾燥機を使用し衛生管理を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後、職員が声かけを行いながら歯磨き等の口腔ケアを行っている。				毎食後に、利用者一人ひとりの状態に合った口腔ケアを実施している。日頃から、職員は一人ひとりの利用者の口腔内の状態の把握に努めるとともに、異常が見られた場合には、早期の歯科医の往診に繋げている。また、毎月歯科医の訪問があり、口腔ケアの方法等を相談し、適切なアドバイスをもらうことができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	毎食後の口腔ケア時に観察を行っている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医師や歯科衛生士の助言等を受けながら活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	入居者の方で義歯の手入れをできる方に関しては職員が見守りながら支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等）	○	毎食後の口腔ケアで清潔を保持できるように支援している。異常があった場合には訪問歯科診療に繋げている。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレを使用して排泄ができる入居者の方には、できる限りトイレに座っての排泄を心がけている。				事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している、一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握するとともに、その日の体調等に合わせて、声かけやトイレ誘導をしたり、必要に応じて、排泄介助をしている。中には、希望や状態に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。また、年に数回、おむつの取扱業者を講師に招き、パッドの種類や正しい交換方法等の研修を受講している。また、利用者の状態等に合った紙パンツやパッド類の使用に努め、正しい使い方をすることで、必要以上にパッド類を使用しないよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	おおむね理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	各ユニット排泄があった際には排泄記録表に記入することで把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄に関する専門家を講師として招き、研修会を行いながら随時入居者の方に合ったおむつ類の見直しを行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	毎月のユニット会で排泄についても話し合いを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	毎月のユニット会で排泄についても話し合いを行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	基本的には毎月のユニット会で話し合いを行い、職員とご家族で話し合いながら使用するパッド類を決めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	◎	状態に合わせた使い分けができている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	日課の体操には声かけを行いながら参加してもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	入浴の基本的な曜日と時間帯は決まっているが、都度入居者の方の状態や希望に合わせて変更している。	◎		○	基本的に、入浴できる曜日を固定し、週2回利用者の入浴を支援している。毎日、湯の張り替えを行い、利用者の体調や状態により、柔軟な入浴日の変更などを可能としている。飲ユニットは、機械浴槽が完備され、重度の利用者も安心安全に湯船に浸ることができる。心ユニットの利用者も、必要に応じて機械浴槽等を使い分けている。また、好みのシャンプー類を家族が用意し、使用する利用者もいる。また、これまでの習慣や希望に合わせて、湯温や洗い方などの支援に、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を入れたり、入居者の方がゆったりと入浴できるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身・洗髪など入居者の方の関節可動域を考えながら、自分でできる範囲の動きをしてもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む入居者の方には時間を空けて声かけを行ったり、入浴日を変更して対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には必ずバイタルチェックを行い入居者の方の眷顧言う状態を確認している。入浴後は水分を摂ってもらい脱水にも注意している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	タブレットに就寝時間等記入し確認している。				入居前から継続して睡眠導入剤や安定剤を服用している利用者があるものの、ふらつきなどの副作用に注意を払うとともに、主治医に睡眠状態を伝え、適切な指示や助言をもらうことができる。また、なるべく散歩や体操、レクリエーションなどの日中の活動量を確保し、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。さらに、利用者の睡眠状況を分析できる「眠リスクヤン」が導入され、センサーマットを布団の下に敷いて睡眠状態を測定するとともに、必要時にデータを主治医に提供し、夜間の睡眠状態の把握や職員の負担軽減に繋がっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	毎月のユニット会で話し合いを行っている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中は体操やレクリエーション活動を主に活動している。 状態変化のある入居者の方についてはご家族と話し合い、必要場合は医師の意見も取り入れながら支援している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	入居者の方それぞれのペースに合わせた生活を送っていただけるように努めている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	入居者の方から希望がある場合は、ご家族に協力してもらい電話や手紙でのやりとりを行っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	毎月のユニット会で話し合い入居者の方のできることを検討している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	入居者の方から希望がある場合は、都度対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等は必ず本人にお渡しし、職員と一緒に確認を行っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	遠方のご家族には電話等で声を聞かせてあげてほしいとお願いしている。近隣のご家族には面会のご協力をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	認知症ケアの研修等で理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	入居者の方の買い物についてはご家族に協力してもらい行っている。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	入居者の方の希望やお金を持っていることで安心する方についてはご家族と相談しながらお金を所持したり使えるように支援している。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	都度ご家族と話し合いを行っている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	入居時に説明し同意を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご家族や入居者の方から要望等があった場合は、事業所が対応できる範囲で対応している。	◎		◎	日頃から、家族と一緒に買い物や外出に出かけたり、冠婚葬祭に行ったりする利用者もいる。また、家族が飼育する犬を事業所に連れてきて、利用者と触れ合う機会を提供することもある。また、利用者や家族から出された希望には、可能な範囲で柔軟に対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は毎朝清掃を行い、かわいらしい雰囲気のものや植物を配置することで気軽に出入りしやすい環境を作っている。	◎	◎	◎	玄関周辺で花を育てるとともに、ベンチが設置されるなど、温かみのある雰囲気が感じられる。玄関扉はガラス戸のため、来客時には事務所からすぐに確認することができる。また、敷地内には広い駐車場が完備され、車での来訪がしやすくなっている。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。）	○	入居者の方の作品を掲示したり、季節の飾り付けをしたりすることで家庭的な雰囲気を作っている。	○	○	◎	リビングや廊下にはソファや本棚、ベンチが置かれ、利用者が読書できるスペースを確保している。利用者は思い思いに、好きな場所で過ごすことができる。訪問調査日には、テーブルに桃の生花が活けられ、ひな祭りの飾りつけを行うなど、季節を感じることもできた。また、廊下や洗面台周りも、日々の清掃や整理整頓が行われている。リビングには普段使用する文具類や新聞等が置かれ、適度な生活感もある。さらに、空間が殺風景にならないように、美しい絵画やインテリアなどの雑貨等も飾られている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	入居者の方が気持ちよく生活できるように心がけている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の飾り付けや植物を置くことで入居者の方の五感に働きかけている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ユニット内の座席やソファの位置を入居者の方がくつろぎやすいような配置になるように努めている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご家族にも協力していただきながら、使い慣れた食器を持参してもらったり、タンスを運び入れてもらったりしている。	◎		◎	居室には、エアコンやベッド、チェスト、洗面台が備えつけられているほか、テレビや雑貨類等の好みのものを持ち込むこともできる。入居時に、家族には、馴染みのものを持参して、利用者が落ち着けるような居室にできることを伝えており、位牌や家族写真を飾るなど、利用者が心地良く過ごせるような空間づくりが行われている。居室の壁面や居室内の備え付けのクローゼットなど、汚れや傷みがあれば、職員が磨いたり、修繕をしており、清潔感が感じられる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	入居者の方が動きやすいような導線の確保と作業スペースの確保に気をつけた配置にしている。			○	建物内はシンプルな構造で、居室等の場所を迷う利用者はほとんどいない。また、居室の入り口に名前プレートが掲示するとともに、中には利用者の顔写真を貼っている居室もある。また、浴室前に暖簾をかけるなど、利用者が一目で場所を認識しやすいよう工夫している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	入居者の方が自由に触れることができる位置に新聞やテレビのリモコン、雑誌等を置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	○	やむを得ない場合以外は施錠することはない。 また、身体拘束の勉強会等で職員理解も図っている。	○	◎	○	常時、両ユニットの出入口は開放されている。日中に屋外から自由に玄関から入ることはできるが、利用者の安全面を考慮して、中から外に出るときは、事務所内にあるボタンを押して解錠する構造となっている。また、ユニットから出て、玄関アプローチから外を眺める利用者があるなど、職員は利用者が閉鎖感を持たせないような支援にも努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族には入居の際に身体拘束等による弊害について説明を行っている。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に情報収集を行い、受診や入院があった際はケース記録にて情報共有を行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	入居者の方の状態変化があった際は連絡ノートやケース記録で情報共有を行っている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	他事業所の看護師による状態チェックやかかりつけ医への受診により重度化の防止や適切な入院に繋げている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居前のかかりつけ病院に継続して受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居前のかかりつけ病院に継続して受診できるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の際はご家族に最近の様子や状態変化をまとめたメモをお渡しし受診に行ってもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は事前に準備している緊急持ち出しファイルにて入居者の方の情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診の際や状態変化があった際はご家族に電話連絡等で情報共有を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	他事業所の看護師と情報共有しながら状態チェックを行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談できる体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	定期的なバイタルチェックと状態観察により、状態変化があった際にはご家族に日頃から連絡を行い、情報共有と早期受診や治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提している。	○	服薬の変更等があった際は必ず服薬情報を確認し、状態変化があった際はご家族に連絡相談を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬介助の際は職員同士の声かけや確認を徹底し、ダブルチェックで服薬の失敗を防ぐ取り組みを行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬の変更があった際には、状態観察をこまめに行い状態変化や様子をご家族に報告するようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	ご家族に入居時、重度化した場合の対応と事業所として対応できる範囲について説明を行い、同意を得ている。				現時点で、事業所での看取り支援は行っておらず、重度の状態になった場合には、利用者や家族の希望を聞きながら主治医と話し合い、今後の方針を決定し、病院や他の施設に転院をしている。事業所では、「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」を整備し、入居時に、利用者や家族に事業所として対応できることなどを説明している。また、事業所には協力医以外を主治医にしている利用者もいる。緊急時以外の病院受診は家族に依頼し、利用者の状態を記録したメモを家族に渡して状況提供するなど、迅速な受診に繋げている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合や入院中に状態変化があった際には、入院先の病院でのカンファレンスや担当医やソーシャルワーカーとの話し合いに参加し今後の方針等を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	ユニットリーダーやご家族、病院関係者と話し合いを行いながらどこまでの対応ができるか判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に説明を行い同意を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	入居者の方のご家族や病院関係者と話し合いを行いながらその後の方針や方向性についてを相談しながら進めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	いつでも気軽に相談に来てもらうことができるように普段から親身に相談に乗ったり関わりを持つようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	毎年、全職員で感染症についての委員会や研修を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症に関するBCPを作成しているが、実際に感染症が発生した場合にマニュアル通りの動きができるところまでは訓練できていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	厚生労働省等からのお知らせはユニット会や回覧板で情報共有を行っている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	全職員、出勤時の体温測定や手洗いうがいの徹底を行っており、入居者の方に関しても手洗いやアルコール消毒を随時行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会の前に抗原検査で陰性を確認してから、面会を行っている。入居時にご家族の関わりもとても大切なことだということを伝えている。				一定の面会制限が設けられ、事業所の玄関を入ってすぐの面談室での面会対応をしている。初詣等の事業所の外出行事には、希望する家族と現地で合流し、家族と一緒に過ごしてもらうこともある。家族と一緒に、外食や通院、買い物を楽しむこともある。月1回、利用者ごとの担当職員が写真を入れた手紙を送付するとともに、月に数回、ホームページ上で、日々の利用者の暮らしや行事の様子を伝え、閲覧することを楽しみにしている家族も多い。また、玄関ホールには、行事の様子 of 写真を用紙にまとめた物が数部置かれ、家族が閲覧するほか、持ち帰れるようにしている。さらに、運営推進会議録を活用して、職員の異動状況や行事、受講した研修内容等も知らせているが、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職や事業所の出来事などが十分に伝わっていないことを窺うことができるため、職員の入退職や異動を周知したり、ほとんど異動がない場合にはその旨を伝えたりするなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	外出行事がある際はご家族に声かけを行ったり、事業所内でのイベントがあった際には、ホームページを通じて様子をお伝えしている。	○		◎	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月担当の職員が入居者の方の様子を写真付きの手紙を作成し送付している。ホームページも頻回にイベントの様子等を更新している。	◎		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居前の話し合いで入居者の方とご家族の関係性を理解し、入居後は、認知症についての説明や認知症により様々な行動変容があることを伝えている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	2ヶ月に1回の運営推進会議で行事や職員の異動状況についての報告を行っており、毎回ご家族に会議の資料を送付している。	×		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	入居の際やリスクが発生しそうな場合にご家族に説明を行っている。予防策については、ご家族に協力してもらうこともある。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族が来訪した際には、入居者の方の近況報告やイベント時の写真をみせたり安心して相談できるように関わっている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居の契約時に契約書を説明しながら交わし、ご家族の納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退居となる事例を説明し、退居の対象が近づいてきた場合にはご家族と相談しながら支援している。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域自治会・公民館へどのような事業所にしたいか説明し理解を得ている。		◎		近隣にある中学校の合唱部が、事業所等でコーラスを披露したり、ボランティア体験を受け入れたりするなど、積極的に地域の学生との交流が図られる。時には、近くに住む小学生が気軽に立ち寄り、利用者や職員と会話を交わすなど、地域に開かれた事業所となっている。管理者は、地域の公民館で開催される文化祭の手伝いをしたり、民生委員に事業所の行事にも参加してもらったりするなど、地域との良好な関係が築れている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	運営推進会議に地域の方を招いたり、地域行事の準備や片付けの手伝いに参加している。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の方との関わりや、地域ボランティアの方との関わりが少しずつ増えてきている。				
		d	地域の人気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	地域の小学生が何度か事業所に立ち寄ってくれた。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	地域の小学生が何度か事業所に立ち寄ってくれた。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	民生委員の方が近隣中学校等と連携をとって、合唱のボランティアや節分の豆まきに参加してもらっている。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣の障害者施設や他法人とも連携をとりながら、イベントの際にお招きしたり情報交換を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取 組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	地域の様々な方が運営推進委員となっている。	○	/	◎	運営推進会議は、市職員や地域の公民館長、自治会長、民生委員、社協の支部長、市議会議員など、多くの参加メンバーを得て開催をしている。会議では、事業所の活動や利用者の様子等を写真を見てもらいながら報告を行い、参加メンバーとの意見交換をしている。また、毎回、家族に会議録を送付し、内容の共有に繋げている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	会議では様々な情報を報告し、運営推進委員の方々から様々な意見をいただいている。	/	◎	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進委員の方々に参加しやすい日程で出席していただいている。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	入居者の方や職員が「心からうれしく心から歓びあえる楽しく和やかな処」となれるように努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	パンフレット等には掲載しているが、わかりやすく伝えることはできていない。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	人事考課にて職員の評価を行っている。 また、事業所内研修や事業所外研修にも参加を促している。	/	/	/	法人の理事長は、もともと事業所の管理者をしていたこともあり、現在でも時折、事業所を来訪し、管理者や職員、利用者と会話を交わしている。また、職員から出された希望や意見は、管理者を通して理事長に伝えることもでき、可能な範囲で、迅速に対応してもらうこともできている。管理者は、「希望や意思を代表者に尊重してくれる」と感じている。さらに、内部研修を実施するほか、外部研修に参加できるようにするなど、働きやすく、スキルアップを図れる環境が整い、長年勤務する職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	オンライン研修等が増加したため、勤務時間中に研修を受けることができる機会が増えた。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課にて評価を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	近隣の障害者施設や他法人との関わりを持つ機会を作っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ICTを導入したり、事務作業の軽減を行ったりストレス軽減の取り組みを行っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	毎年、全職員で高齢者虐待についての委員会や研修を行い、虐待や不適切ケアが発生しないように努めている。	/	/	◎	年4回程度、虐待防止や不適切ケアの内部研修を実施するとともに、日頃からもユニット会等で職員自らのケアを振り返る機会を持つとともに、職員間で話し合いをしている。また、不適切ケアの具体的な行為を職員は把握し、スピーチロックにならないような声かけも、意識した対応をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月のユニット会には必ず参加し、ケアについて話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に入居者の方が安心・安全に生活ができるように心がけている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取 組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎年、全職員で身体拘束についての委員会や研修を行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月のユニット会で話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居の際にご家族に身体拘束による弊害についての説明を行っている。また、ご家族から相談があった際も身体拘束に該当する場合は他の方法を一緒に考えながら進めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	入居者の方で成年後見制度を利用されている方が居り、成年後見制度が必要な場合には説明を行っている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	連携体制が築かれている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	アクシデントが発生した場合の連絡体制や対応方法について毎月のユニット会で随時話し合いを行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	毎月のユニット会で話し合いは行っているが、定期的な訓練は現在できていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故再発防止委員会を毎月ユニット会の際に行い、アクシデントやインシデントについての検討、対策を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎月のユニット会で話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	重要事項説明書にも記載しており、職員も苦情等があった場合の対応方法についてある程度理解できている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情については今のところ発生していないが、発生した場合には連絡、相談を行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情については今のところ発生していないが、発生した場合には連絡、相談を行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を玄関に設置し、いつでも気軽に相談できる関係を普段から築いている。	○		○	日々の関わりの中で、利用者から希望や意見を聞いている。面会時等に声をかけて、家族から意見や要望を聞くなど、話しやすい雰囲気づくりも努めている。また、日頃から管理者は介護現場に従事し、利用者に関わることも多く、職員は安心感を持ってケアを実践するとともに、管理者に意見や提案等を伝えやすくなっている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	いつでも気軽に相談できる関係を普段から築いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	普段からユニットに入っていき、職員とのコミュニケーションを大切にしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月のユニット会には参加し、職員の意見や考えを大切にしている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	人事考課の際に自己評価を行っている。				外部評価のサービス評価結果は、運営推進会議の中で報告をしている。今後は、目標達成計画や目標の達成状況も、運営推進会議の参加メンバーや家族に報告し、意見や助言を収集するなど、モニターとしての役割を担ってもらえるような取り組みも期待される。また、職員にも、外部評価の自己評価の作成に参画してもらい、様々な意見を収集した上で、自己評価を作成していくことを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価の結果をふまえて、課題を随時抽出しながら課題解決に向けて取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議等での報告は行っているが、モニターは行っていない。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	入居者の方のご家族より高い評価を受けていることに職員も良い刺激を受けている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	BCPを作成し、全職員に業務継続計画についての研修を行っている。				地域の自治会と災害時の協定を締結しているものの、火災発生時等における具体的な協力内容までの話し合いは行われていない。今後は、運営推進会議等で、事業所の避難訓練の様子を写真等で報告して、意見交換をしたり、火災発生時の避難時に、利用者の避難誘導や見守りをするなど、具体的な支援内容を検討していくことも期待される。事業所は、市行政から福祉避難所に指定され、法人全体で水や食料などの備蓄品を用意している。さらに、防災士資格を持つ管理者は、市内の学校の防災訓練で講師を務めることもあり、防災意識を高く持っている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の避難訓練を実施し、消防署に届出と立ち会いをお願いしている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年2回委託している業者による点検を行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近隣の自治会と協定を結び、災害が発生した際の協力体制がとれている。	×	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	法人として防災士を育成し、地域の防災訓練等に参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	◎	ホームページにて情報発信を行っており、地域の方やご家族から好評をいただいている。				地域の自治会の祭りなどに、法人の介護支援専門員と参加協力して、介護相談を行うなど、地域住民が気軽に相談できる場を設けている。日頃から、市内にある社会福祉法人との相互交流が図られ、利用者も一緒に行事やイベントに参加している。また、地域の中学生との交流のほか、西条市にある小学生ダンスチームにダンスを披露してもらったりするなどの幅広い交流も図られている。また、市行政や地域包括センターなどの関係機関との良好な連携も図られている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の自治会まつり等に参加し介護相談を行っている。		△	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	他法人や地域の学生を招いたイベントを随時行っている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	毎年実習生やボランティア体験の受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のイベントの準備や片付け等に積極的に参加している。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 7 年 2 月 28 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3890500394
事業所名	グループホーム 集い
(ユニット名)	心
記入者(管理者)	
氏 名	白石 貴大
自己評価作成日	令和 7 年 2 月 3 日

(別表第1の2)

【事業所理念】 「心からうれしく心から歓びあえる 楽しく和やかな 処」	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 「日常的な外出支援」・・・初詣や花見など可能な範囲での外出支援を行うことができた。 「本人を共に支え合う家族との関係作りと支援」・・・事業所の運営上の事柄や職員異動状況は運営推進会議の資料にて行っていたが、今後は写真付きのボードなどを用意しより見やすいものを作っていく。 「災害への備え」・・・年2回の消防訓練を実施(1回は消防署立ち会い)家族様や運営推進会議にて訓練の様子を写真で説明できた。 「理念の共有」・・・事業所の理念について運営推進会議などで報告は行っていたが、まだまだ共有という段階まではできていない。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、新居浜市内の見晴らしの良い新興住宅地の近くに立地している。平屋建ての事業所と同じ敷地内には、法人の小規模特別養護老人ホームなどが併設されている。毎月、工夫した行事を開催したり、季節の花を見に行ったり、事業所の家庭菜園で育てた野菜を利用者と一緒に収穫をするなど、利用者が生き生きとした楽しみや喜びのある生活を送れるよう支援している。また、地域の中学生のボランティア体験や合唱部の訪問を受け入れるなど、盛んに利用者と学生との交流も図られている。さらに、地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、市内にある社会福祉法人と一緒に、イベント時に相互交流を図ったり、自治会の祭りの手伝いをするなど、地域や関係機関との交流も図られている。感染対策が続き、家族との面会は一定の制限が設けられているものの、家族と一緒に外出や外食をすることも可能としている。毎月、お便りを家族に送付したり、ホームページ上に行事の様子を掲載したり、運営推進会議の会議録を送付するなど、積極的に事業所の活動や利用者の様子を伝えている。加えて、職員は働きやすさのほか、研修でスキルアップを図れる体制もあり、長年勤務する職員も多い。
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前の情報収集や日々の関わりの中で把握するようにしている。	○			入居時に、管理者と介護支援専門員と一緒に利用者や家族と面談を行い、思いや暮らし方の希望、意向を聞き、アセスメントシートに利用者と家族の希望等を記録している。また、日々の生活の中で、新たな情報を聞くこともあり、記録に残すとともに、毎月のユニット会で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	関わりの中で本人の表情や様子から検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時や施設訪問時にお時間をいただき情報共有をしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	毎月のユニット会で情報共有し記録を残している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	関わりの中での発言や表情、行動について毎月のユニット会で話し合いを行っている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の家族様とのカンファレンスや面会時にお時間をいただき話し合いを行っている。				◎ 入居時に、管理者と計画作成担当者が自宅等に訪問し、生活歴や馴染みの暮らし方、既往歴等の聞き取りをしている。入居前に利用していた介護サービス事業所や介護支援専門員からも、サービス利用の経緯や状況等の情報を収集している。生活歴や趣味、得意なことや生きがいなどの情報は、フェイスシートに記録し、職員間で共有している。事業所では、導入済の介護ソフトに記録を残すとともに、科学的介護情報システム(LIFE)の活用に向けて、改めて利用者の情報を整理している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	関わりの中で把握している。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	関わりの中で把握している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のユニット会で検討している。				○ 事前に、利用者や家族から希望等を聞くとともに、アセスメント情報や把握した情報をもとに担当者会議で話し合い、利用者の課題やより良い支援を検討している。また、話し合われた内容は、担当者会議録に記録を残している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	毎月のユニット会で検討した内容について話し合いを行っている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	昔からの生活歴をもとに現在できることを継続していけるような内容になるように努めている。				○ 利用者や家族の希望のほか、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員間で課題や必要なサービス内容を話し合い、計画作成担当者を中心に、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	状態変化があった際はご家族に連絡したり面会時に話し合いを行っている。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	現在重度の方は入居していないが、皆様に安心した生活を送っていただけるように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	現在ご家族を含めてのイベント等は開催できていないが、ボランティアや他法人との合同イベントを実施している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護記録で使用しているタブレット端末にて情報共有を行っている。	/	/	◎	介護ソフトに介護計画が入力され、パソコンやタブレットを活用して、いつでも職員は計画を確認できるようになっている。また、計画のサービス内容の実施の有無は、日々のケア記録に入力し、状況を把握できるようにしている。また、3か月に1回モニタリングを実施して、利用者の現状を確認するとともに、毎月のユニット会で、計画の内容や利用者の状態などの話し合いをしている。訪問調査日には、モニタリングの記録様式に、記録が残されていないものも見受けられたため、記録の漏れをなくすとともに、職員間で共有し、より良いサービス提供に繋げていくことも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	タブレット端末にてケア記録や申し送り機能を使用して行っている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月のユニット会で都度見直しを行っている。	/	/	◎	3か月に1回、モニタリングの実施と介護計画の見直しをしている。毎月のユニット会の中でも、介護計画の内容が、利用者の現状に即しているかどうかの話し合いもしている。また、利用者の状態に変化が見られた場合には、必要に応じて計画の見直しや変更をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のユニット会で確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院があった場合等は家族様や病院関係者と話し合いを行い見直しを行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月のユニット会または緊急の際は都度話し合いを行っている。	/	/	◎	月1回ユニット会を開催し、利用者の現状や課題を話し合うとともに、職員間で情報を共有している。会議には、なるべく多くの職員が参加できるように、事前に開催日時を調整している。また、参加できなかった職員は、会議録や申し送りノートを確認してもらい、職員間で共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	毎月のユニット会では現在活発な意見交換ができています。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	各ユニットごとに出勤者の多い日や参加可能な職員が多い日を話し合いながら日程を決めている。参加できない職員に対しては会議録や申し送りノートを通して情報共有を行っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	タブレット端末と申し送りノートを活用し情報共有を行うとともに職員間でコミュニケーションを取り合いながら情報伝達を行っている。	◎	/	○	日勤と夜勤の勤務交代時に、申し送りノートやタブレット上のケア記録を活用して、申し送りを実施している。出勤時等には、全ての職員が申し送りノートを確認し、確認後にチェックを入れる仕組みが構築され、確実な情報伝達に繋がっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	関わりの中で入居者の方から希望がある際は希望に添えるように努めている。	/	/	/	職員は、利用者の自己決定や選択を促せるような支援に努め、自分で着る服などを選ぶ利用者も多い。自己決定が難しい利用者には、職員が付き添って、選びやすいような声かけやサポートをしている。毎日実施するレクリエーションの内容も、職員は利用者に声をかけ、やりたい工作などをできるようにしている。また、利用者の好きな家庭菜園での野菜栽培や読書など、生活の中で継続できるよう支援している。毎月実施する行事は、職員が楽しいイベントを考え、外部からのダンスなどのボランティアを受け入れることもあり、日々の利用者の楽しみや喜びにも繋がっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	外出行事や入浴の際等に着用したい衣服を自己決定していただいたり、日課の体操の参加に関しても声かけにて自己決定してもらっている。	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	都度臨機応変に入居者の方の希望を聞きながら支援している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	普段の関わりの中で入居者の方が少しでも笑顔になれるような言葉かけを行っている。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	関わりの中で表情や動作、行動を観察し意向に沿った暮らしができるように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	丁寧な言葉かけや排泄等のプライバシーに関わることは周りの状況に気を遣いながら意識して行動している。	◎	○	◎	内部研修の中で、人権や尊厳等を学び、職員は意識した対応をしている。日頃から、管理者とユニットリーダーは職員への言動に注意を払うとともに、気になる言動が見られた場合には、該当職員に注意喚起をしている。また、居室に入室する際には、事前のノックや声かけを徹底し、訪問調査日にも調査員が居室を見学する際に、管理者から利用者へ声をかけてから一緒に入室し、利用者自らが説明してくれる場面が見られた。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入居者の方の自尊心を傷つけないような声かけやトイレ誘導排泄チェックを行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入りの際は、必ずノックと声かけを行っている。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入職時に説明を行い、同意誓約書をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	入居者の方が今できていることを把握し、生活の中で自分ができることは自分で行い、生活リハビリを行っている。				職員は利用者同士の関係性や性格に考慮しながら、毎月席替えをしたり、利用者が孤立しないように声をかけたりするなど、穏やかな雰囲気の中で生活を送れるよう支援している。また、食後に他の利用者のお盆を下膳したり、車いすの利用者を押したりするなど、職員は危険のないように見守りをしながら、助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	座席の配置等を考えながら、入居者の方々が共にコミュニケーションをとりやすい環境作りを行っている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	都度入居者の方の状況に応じた座席を考え、孤立しないように声かけや誘導を行っている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが発生しそうな場合は、職員が間に入りトラブルに繋がらないように努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前のご家族との話し合いや担当ケアマネージャーからの生活歴等の情報提供で把握している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	面会や外出等を積極的に行えるように支援している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	季節や天候を考慮しながら散歩や日光浴を行っている。イベントとして花見やドライブにも行っている。	○	△	◎	各ユニットで、車いすを使用する利用者と一緒に、季節に応じて花を見に行ったり、法人の車を使用して、初詣等に出かけたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。日頃から交流のある市内の社会福祉法人との相互交流があり、イベント時に喫茶を開催する際に、利用者も一緒に出かけて、お茶の時間を楽しんでいる。また、日常的に敷地内の駐車場を週に数回散歩したり、家庭菜園で野菜を育てたりすることもある。中には、家族と買い物や外食等を楽しむ利用者もいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	面会時等に外出支援をすすめている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	毎月のユニット会で話し合いを行いながらケアの方針を決めている。				職員は利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握し、できることは自分でしてもらい、見守りやできない部分のサポートをしている。状態の変化等があれば、随時介護ソフトの利用者の情報を入力するとともに、職員間で情報を共有している。その時々の利用者の状態により、できることに違いはあるものの、職員はなるべく利用者の残存能力を活かして、職員が必要以上の介助をせずに、見守りや声かけを行い、心身機能の維持や向上を図れるような支援にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	入居者の方のできる力を維持するために、できることは自分でしていただくことで生活リハビリに取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	毎月のユニット会で話し合いながらできることの把握と共有を行っている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	入居者の方全員に役割を持ってもらうことはできていない。				洗濯物たたみや食器の下膳、ほうきでの掃き掃除、テーブル拭きなど、職員は声をかけ、得意な役割や好きな出番を担えるよう支援している。手伝ってもらった後には、職員は利用者に感謝の言葉を伝え、やりがいや喜びに繋げている。また、ユニット会で話し合い、利用者がどのような役割を担えるのかを検討している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	毎月のユニット会で話し合いを行っている。	◎	○	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	起床時や入浴時に衣類を選んでもらっている。 身だしなみについても入居者の方が可能な範囲で化粧や髪の設定をしていただいている。				整容の乱れや衣服の汚れが見られた場合は、利用者のプライドに配慮しながらさりげなく声をかけてサポートをしたり、居室に移動して、着替えてもらったりするなどの対応をしている。訪問理美容の来訪時に、好みの髪型に整えてもらっている。また、居室にある洗面台の鏡を見ながら髪を梳いたり、電気シェーバーで髭を剃るのを手伝ったりするなど、身だしなみを整えられるよう支援している。中には、好みの化粧水等を使用する利用者もあり、おしゃれや身だしなみなどの習慣を継続し、本人らしさが保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	訪問理美容時などに入居者の方が髪型などを自分の希望で決めることができるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	入居者の方が理解しやすい声かけを行い、表情等から本人の気持ちをくみ取りながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	入居者のご家族が持参されている服の中から、季節に合った服を職員が何種類か選びその中から本人に選ぶように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	◎	入居者の方のプライドを傷つけないように個別に声かけや更衣を行っている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	委託している訪問理美容にて行っている。 家族様の協力と入居者の方の希望がある場合は対応可能。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	起床時やトイレ後などユニット内の鏡前にお連れし自分の姿が見られるように支援している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員が入居者の方と一緒に食事を召し上がることで食事の一連のプロセスや大切さを理解している。				毎食、同敷地内にある法人施設の厨房で調理された食材が事業所に届けられ、炊飯や盛り付けを行い、利用者に食事を提供している。夕食時の汁物はユニット内で作っている。法人の栄養士が献立を作成し、季節を感じる旬の食材や、季節のクリスマスやおせちなどの特別メニューを取り入れている。また、ひな祭りや誕生会の行事の際には、厨房からの食事を止めて、ユニット内で職員が調理し、お好み焼きや餃子を利用者と一緒に作るなど、利用者に喜ばれている。さらに、敷地内にある家庭菜園で利用者と一緒に栽培や収穫した旬の野菜が食卓に並ぶこともある。食物のアレルギーやきざみ食等の食事形態は、事前に把握し、利用者の状態に合わせて対応をしている。食器類は、自宅から持参した使い慣れた物のほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、職員は利用者と一緒に同じ食事を摂りながら、見守りや食事介助をしている。リビングの壁面に献立が掲示され、リビングに面しているキッチンから、利用者の食事の準備などの雰囲気を感じることができる。加えて、献立の栄養バランスや食事内容について、月1回の給食委員会で話し合い、栄養士に意見等を伝えることもできる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	入居者の方ができる範囲で食器の準備や後片付けを行っている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	毎月のユニット会で話し合いを行い、入居者の方の残存機能を維持できるような支援を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居の際の情報収集で把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	委託している給食会社により献立は作成されている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。（安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等）	◎	入居者の方の状態に合わせた食事形態で提供している。 盛り付けも職員が毎食丁寧にやっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みの食器や湯呑みになるべく持参してもらうように促している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	食事の際は各テーブルに職員が座り、介助が必要な方には随時対応を行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ユニット内に献立を掲示したり、食事介助の際に食材を伝えながら介助を行っている。	○		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養バランスやカロリーについては委託している給食会社の栄養士が献立を作成している。水分については職員が声かけ促しを行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	常に把握し、声かけ等を行いながら提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	委託している給食会社の栄養士が献立を考えている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	手指のアルコール消毒やテーブルの除菌を毎食前に行い、調理用具についても食器乾燥機を使用し衛生管理を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後、職員が声かけを行いながら歯磨き等の口腔ケアを行っている。				毎食後に、利用者一人ひとりの状態に合った口腔ケアを実施している。日頃から、職員は一人ひとりの利用者の口腔内の状態の把握に努めるとともに、異常が見られた場合には、早期の歯科医の往診に繋げている。また、毎月歯科医の訪問があり、口腔ケアの方法等を相談し、適切なアドバイスをもらうことができている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	毎食後の口腔ケア時に観察を行っている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医師や歯科衛生士の助言等を受けながら活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	入居者の方で義歯の手入れをできる方に関しては職員が見守りながら支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等）	○	毎食後の口腔ケアで清潔を保持できるように支援している。異常があった場合には訪問歯科診療に繋げている。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレを使用して排泄ができる入居者の方には、できる限りトイレに座っての排泄を心がけている。				事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している、一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握するとともに、その日の体調等に合わせて、声かけやトイレ誘導をしたり、必要に応じて、排泄介助をしている。中には、希望や状態に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。また、年に数回、おむつの取扱業者を講師に招き、パッドの種類や正しい交換方法等の研修を受講している。また、利用者の状態等に合った紙パンツやパッド類の使用に努め、正しい使い方をすることで、必要以上にパッド類を使用しないよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	おおむね理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	各ユニット排泄があった際には排泄記録表に記入することで把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄に関する専門家を講師として招き、研修会を行いながら随時入居者の方に合ったおむつ類の見直しを行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	毎月のユニット会で排泄についても話し合いを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	毎月のユニット会で排泄についても話し合いを行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	基本的には毎月のユニット会で話し合いを行い、職員とご家族で話し合いながら使用するパッド類を決めている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	◎	状態に合わせた使い分けができている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	日課の体操には声かけを行いながら参加してもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	入浴の基本的な曜日と時間帯は決まっているが、都度入居者の方の状態や希望に合わせて変更している。	◎		○	基本的に、入浴できる曜日を固定し、週2回利用者の入浴を支援している。毎日、湯の張り替えを行い、利用者の体調や状態により、柔軟な入浴日の変更などを可能としている。飲ユニットは、機械浴槽が完備され、重度の利用者も安心安全に湯船に浸ることができる。心ユニットの利用者も、必要に応じて機械浴槽等を使い分けている。また、好みのシャンプー類を家族が用意し、使用する利用者もいる。また、これまでの習慣や希望に合わせて、湯温や洗い方などの支援に、柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を入れたり、入居者の方がゆったりと入浴できるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身・洗髪など入居者の方の関節可動域を考えながら、自分でできる範囲の動きをしてもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む入居者の方には時間を空けて声かけを行ったり、入浴日を変更して対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には必ずバイタルチェックを行い入居者の方の眷顧言う状態を確認している。入浴後は水分を摂ってもらい脱水にも注意している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	タブレットに就寝時間等記入し確認している。				入居前から継続して睡眠導入剤や安定剤を服用している利用者があるものの、ふらつきなどの副作用に注意を払うとともに、主治医に睡眠状態を伝え、適切な指示や助言をもらうことができる。また、なるべく散歩や体操、レクリエーションなどの日中の活動量を確保し、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。さらに、利用者の睡眠状況を分析できる「眠リスクヤン」が導入され、センサーマットを布団の下に敷いて睡眠状態を測定するとともに、必要時にデータを主治医に提供し、夜間の睡眠状態の把握や職員の負担軽減に繋がっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	毎月のユニット会で話し合いを行っている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中は体操やレクリエーション活動を主に活動している。 状態変化のある入居者の方についてはご家族と話し合い、必要場合は医師の意見も取り入れながら支援している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	入居者の方それぞれのペースに合わせた生活を送っていただけるように努めている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	入居者の方から希望がある場合は、ご家族に協力してもらい電話や手紙でのやりとりを行っている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	毎月のユニット会で話し合い入居者の方のできることを検討している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	入居者の方から希望がある場合は、都度対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等は必ず本人にお渡しし、職員と一緒に確認を行っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	遠方のご家族には電話等で声を聞かせてあげてほしいとお願いしている。近隣のご家族には面会のご協力をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	認知症ケアの研修等で理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	入居者の方の買い物についてはご家族に協力してもらい行っている。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	入居者の方の希望やお金を持っていることで安心する方についてはご家族と相談しながらお金を所持したり使えるように支援している。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	都度ご家族と話し合いを行っている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	入居時に説明し同意を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ご家族や入居者の方から要望等があった場合は、事業所が対応できる範囲で対応している。	◎		◎	日頃から、家族と一緒に買い物や外出に出かけたり、冠婚葬祭に行ったりする利用者もいる。また、家族が飼育する犬を事業所に連れてきて、利用者と触れ合う機会を提供することもある。また、利用者や家族から出された希望には、可能な範囲で柔軟に対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は毎朝清掃を行い、かわいらしい雰囲気のものや植物を配置することで気軽に出入りしやすい環境を作っている。	◎	◎	◎	玄関周辺で花を育てるとともに、ベンチが設置されるなど、温かみのある雰囲気が感じられる。玄関扉はガラス戸のため、来客時には事務所からすぐに確認することができる。また、敷地内には広い駐車場が完備され、車での来訪がしやすくなっている。

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。）	○	入居者の方の作品を掲示したり、季節の飾り付けをしたりすることで家庭的な雰囲気を作っている。	○	○	◎	リビングや廊下にはソファや本棚、ベンチが置かれ、利用者が読書できるスペースを確保している。利用者は思い思いに、好きな場所で過ごすことができる。訪問調査日には、テーブルに桃の生花が活けられ、ひな祭りの飾りつけを行うなど、季節を感じることもできた。また、廊下や洗面台周りも、日々の清掃や整理整頓が行われている。リビングには普段使用する文具類や新聞等が置かれ、適度な生活感もある。さらに、空間が殺風景にならないように、美しい絵画やインテリアなどの雑貨等も飾られている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	入居者の方が気持ちよく生活できるように心がけている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の飾り付けや植物を置くことで入居者の方の五感に働きかけている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ユニット内の座席やソファの位置を入居者の方がくつろぎやすいような配置になるように努めている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご家族にも協力していただきながら、使い慣れた食器を持参してもらったり、タンスを運び入れてもらったりしている。	◎		◎	居室には、エアコンやベッド、チェスト、洗面台が備えつけられているほか、テレビや雑貨類等の好みのものを持ち込むこともできる。入居時に、家族には、馴染みのものを持参して、利用者が落ち着けるような居室にできることを伝えており、位牌や家族写真を飾るなど、利用者が心地良く過ごせるような空間づくりが行われている。居室の壁面や居室内の備え付けのクローゼットなど、汚れや傷みがあれば、職員が磨いたり、修繕をしており、清潔感が感じられる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	入居者の方が動きやすいような導線の確保と作業スペースの確保に気をつけた配置にしている。			○	建物内はシンプルな構造で、居室等の場所を迷う利用者はほとんどいない。また、居室の入り口に名前プレートが掲示するとともに、中には利用者の顔写真を貼っている居室もある。また、浴室前に暖簾をかけるなど、利用者が一目で場所を認識しやすいよう工夫している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	入居者の方が自由に触れることができる位置に新聞やテレビのリモコン、雑誌等を置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）	○	やむを得ない場合以外は施錠することはない。 また、身体拘束の勉強会等で職員理解も図っている。	○	◎	○	常時、両ユニットの出入口は開放されている。日中に屋外から自由に玄関から入ることはできるが、利用者の安全面を考慮して、中から外に出るときは、事務所内にあるボタンを押して解錠する構造となっている。また、ユニットから出て、玄関アプローチから外を眺める利用者があるなど、職員は利用者が閉鎖感を持たせないような支援にも努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族には入居の際に身体拘束等による弊害について説明を行っている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に情報収集を行い、受診や入院があった際はケース記録にて情報共有を行っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	入居者の方の状態変化があった際は連絡ノートやケース記録で情報共有を行っている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	他事業所の看護師による状態チェックやかかりつけ医への受診により重度化の防止や適切な入院に繋げている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居前のかかりつけ病院に継続して受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居前のかかりつけ病院に継続して受診できるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の際はご家族に最近の様子や状態変化をまとめたメモをお渡しし受診に行ってもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は事前に準備している緊急持ち出しファイルにて入居者の方の情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	受診の際や状態変化があった際はご家族に電話連絡等で情報共有を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	他事業所の看護師と情報共有しながら状態チェックを行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談できる体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	定期的なバイタルチェックと状態観察により、状態変化があった際にはご家族に日頃から連絡を行い、情報共有と早期受診や治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提している。	○	服薬の変更等があった際は必ず服薬情報を確認し、状態変化があった際はご家族に連絡相談を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬介助の際は職員同士の声かけや確認を徹底し、ダブルチェックで服薬の失敗を防ぐ取り組みを行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬の変更があった際には、状態観察をこまめに行い状態変化や様子をご家族に報告するようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	ご家族に入居時、重度化した場合の対応と事業所として対応できる範囲について説明を行い、同意を得ている。				現時点で、事業所での看取り支援は行っておらず、重度の状態になった場合には、利用者や家族の希望を聞きながら主治医と話し合い、今後の方針を決定し、病院や他の施設に転院をしている。事業所では、「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」を整備し、入居時に、利用者や家族に事業所として対応できることなどを説明している。また、事業所には協力医以外を主治医にしている利用者もいる。緊急時以外の病院受診は家族に依頼し、利用者の状態を記録したメモを家族に渡して状況提供するなど、迅速な受診に繋げている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合や入院中に状態変化があった際には、入院先の病院でのカンファレンスや担当医やソーシャルワーカーとの話し合いに参加し今後の方針等を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	ユニットリーダーやご家族、病院関係者と話し合いを行いながらどこまでの対応ができるか判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に説明を行い同意を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	入居者の方のご家族や病院関係者と話し合いを行いながらその後の方針や方向性についてを相談しながら進めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	いつでも気軽に相談に来てもらうことができるように普段から親身に相談に乗ったり関わりを持つようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	毎年、全職員で感染症についての委員会や研修を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症に関するBCPを作成しているが、実際に感染症が発生した場合にマニュアル通りの動きができるところまでは訓練できていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	厚生労働省等からのお知らせはユニット会や回覧板で情報共有を行っている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	全職員、出勤時の体温測定や手洗いうがいの徹底を行っており、入居者の方に関しても手洗いやアルコール消毒を随時行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会の前に抗原検査で陰性を確認してから、面会を行っている。入居時にご家族の関わりもとても大切なことだということを伝えている。				一定の面会制限が設けられ、事業所の玄関を入ってすぐの面談室での面会対応をしている。初詣等の事業所の外出行事には、希望する家族と現地で合流し、家族と一緒に過ごしてもらうこともある。家族と一緒に、外食や通院、買い物を楽しむこともある。月1回、利用者ごとの担当職員が写真を入れた手紙を送付するとともに、月に数回、ホームページ上で、日々の利用者の暮らしや行事の様子を伝え、閲覧することを楽しみにしている家族も多い。また、玄関ホールには、行事の様子の写真を用紙にまとめた物が数部置かれ、家族が閲覧するほか、持ち帰れるようにしている。さらに、運営推進会議録を活用して、職員の異動状況や行事、受講した研修内容等も知らせているが、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職や事業所の出来事などが十分に伝わっていないことを窺うことができるため、職員の入退職や異動を周知したり、ほとんど異動がない場合にはその旨を伝えたりするなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	外出行事がある際はご家族に声かけを行ったり、事業所内でのイベントがあった際には、ホームページを通じて様子をお伝えしている。	○		◎	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月担当の職員が入居者の方の様子を写真付きの手紙を作成し送付している。ホームページも頻回にイベントの様子等を更新している。	◎		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居前の話し合いで入居者の方とご家族の関係性を理解し、入居後は、認知症についての説明や認知症により様々な行動変容があることを伝えている。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	2ヶ月に1回の運営推進会議で行事や職員の異動状況についての報告を行っており、毎回ご家族に会議の資料を送付している。	×		○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	入居の際やリスクが発生しそうな場合にご家族に説明を行っている。予防策については、ご家族に協力してもらうこともある。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族が来訪した際には、入居者の方の近況報告やイベント時の写真をみせたり安心して相談できるように関わっている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居の契約時に契約書を説明しながら交わし、ご家族の納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退居となる事例を説明し、退居の対象が近づいてきた場合にはご家族と相談しながら支援している。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域自治会・公民館へどのような事業所にしたいか説明し理解を得ている。		◎		近隣にある中学校の合唱部が、事業所等でコーラスを披露したり、ボランティア体験を受け入れたりするなど、積極的に地域の学生との交流が図られる。時には、近くに住む小学生が気軽に立ち寄り、利用者や職員と会話を交わすなど、地域に開かれた事業所となっている。管理者は、地域の公民館で開催される文化祭の手伝いをしたり、民生委員に事業所の行事にも参加してもらったりするなど、地域との良好な関係が築れている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	運営推進会議に地域の方を招いたり、地域行事の準備や片付けの手伝いに参加している。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の方との関わりや、地域ボランティアの方との関わりが少しずつ増えてきている。				
		d	地域の人気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	地域の小学生が何度か事業所に立ち寄ってくれた。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	地域の小学生が何度か事業所に立ち寄ってくれた。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	民生委員の方が近隣中学校等と連携をとって、合唱のボランティアや節分の豆まきに参加してもらっている。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣の障害者施設や他法人とも連携をとりながら、イベントの際にお招きしたり情報交換を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取 組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	地域の様々な方が運営推進委員となっている。	○	/	◎	運営推進会議は、市職員や地域の公民館長、自治会長、民生委員、社協の支部長、市議会議員など、多くの参加メンバーを得て開催をしている。会議では、事業所の活動や利用者の様子等を写真を見てもらいながら報告を行い、参加メンバーとの意見交換をしている。また、毎回、家族に会議録を送付し、内容の共有に繋げている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	会議では様々な情報を報告し、運営推進委員の方々から様々な意見をいただいている。	/	◎	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進委員の方々に参加しやすい日程で出席していただいている。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	入居者の方や職員が「心からうれしく心から飲びあえる楽しく和やかな処」となれるように努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	パンフレット等には掲載しているが、わかりやすく伝えることはできていない。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	人事考課にて職員の評価を行っている。 また、事業所内研修や事業所外研修にも参加を促している。	/	/	/	法人の理事長は、もともと事業所の管理者をしていたこともあり、現在でも時折、事業所を来訪し、管理者や職員、利用者と会話を交わしている。また、職員から出された希望や意見は、管理者を通して理事長に伝えることもでき、可能な範囲で、迅速に対応してもらうこともできている。管理者は、「希望や意思を代表者に尊重してくれる」と感じている。さらに、内部研修を実施するほか、外部研修に参加できるようにするなど、働きやすく、スキルアップを図れる環境が整い、長年勤務する職員も多い。
		b	管理者は、OJT（職場での実務を通して行う教育・訓練・学習）を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	オンライン研修等が増加したため、勤務時間中に研修を受けることができる機会が増えた。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	人事考課にて評価を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。（事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加）	○	近隣の障害者施設や他法人との関わりを持つ機会を作っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ICTを導入したり、事務作業の軽減を行ったりストレス軽減の取り組みを行っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	毎年、全職員で高齢者虐待についての委員会や研修を行い、虐待や不適切ケアが発生しないように努めている。	/	/	◎	年4回程度、虐待防止や不適切ケアの内部研修を実施するとともに、日頃からもユニット会等で職員自らのケアを振り返る機会を持つとともに、職員間で話し合いをしている。また、不適切ケアの具体的な行為を職員は把握し、スピーチロックにならないような声かけも、意識した対応をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月のユニット会には必ず参加し、ケアについて話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に入居者の方が安心・安全に生活ができるように心がけている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取 組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎年、全職員で身体拘束についての委員会や研修を行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月のユニット会で話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居の際にご家族に身体拘束による弊害についての説明を行っている。また、ご家族から相談があった際も身体拘束に該当する場合は他の方法を一緒に考えながら進めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	入居者の方で成年後見制度を利用されている方が居り、成年後見制度が必要な場合には説明を行っている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関（社会福祉協議会、後見センター、司法書士等）との連携体制を築いている。	○	連携体制が築かれている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	アクシデントが発生した場合の連絡体制や対応方法について毎月のユニット会で随時話し合いを行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	毎月のユニット会で話し合いは行っているが、定期的な訓練は現在できていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故再発防止委員会を毎月ユニット会の際に行い、アクシデントやインシデントについての検討、対策を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎月のユニット会で話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	重要事項説明書にも記載しており、職員も苦情等があった場合の対応方法についてある程度理解できている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情については今のところ発生していないが、発生した場合には連絡、相談を行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情については今のところ発生していないが、発生した場合には連絡、相談を行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。（法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等）	○	意見箱を玄関に設置し、いつでも気軽に相談できる関係を普段から築いている。	○		○	日々の関わりの中で、利用者から希望や意見を聞いている。面会時等に声をかけて、家族から意見や要望を聞くなど、話しやすい雰囲気づくりも努めている。また、日頃から管理者は介護現場に従事し、利用者に関わることも多く、職員は安心感を持ってケアを実践するとともに、管理者に意見や提案等を伝えやすくなっている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	いつでも気軽に相談できる関係を普段から築いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	普段からユニットに入っていく、職員とのコミュニケーションを大切にしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月のユニット会には参加し、職員の意見や考えを大切にしている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	人事考課の際に自己評価を行っている。				外部評価のサービス評価結果は、運営推進会議の中で報告をしている。今後は、目標達成計画や目標の達成状況も、運営推進会議の参加メンバーや家族に報告し、意見や助言を収集するなど、モニターとしての役割を担ってもらえるような取り組みも期待される。また、職員にも、外部評価の自己評価の作成に参画してもらい、様々な意見を収集した上で、自己評価を作成していくことを期待したい。
		b	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価の結果をふまえて、課題を随時抽出しながら課題解決に向けて取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議等での報告は行っているが、モニターは行っていない。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	入居者の方のご家族より高い評価を受けていることに職員も良い刺激を受けている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	BCPを作成し、全職員に業務継続計画についての研修を行っている。				地域の自治会と災害時の協定を締結しているものの、火災発生時等における具体的な協力内容までの話し合いは行われていない。今後は、運営推進会議等で、事業所の避難訓練の様子を写真等で報告して、意見交換をしたり、火災発生時の避難時に、利用者の避難誘導や見守りをするなど、具体的な支援内容を検討していくことも期待される。事業所は、市行政から福祉避難所に指定され、法人全体で水や食料などの備蓄品を用意している。さらに、防災士資格を持つ管理者は、市内の学校の防災訓練で講師を務めることもあり、防災意識を高く持っている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の避難訓練を実施し、消防署に届出と立ち会いをお願いしている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年2回委託している業者による点検を行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近隣の自治会と協定を結び、災害が発生した際の協力体制がとれている。	×	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	法人として防災士を育成し、地域の防災訓練等に参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	◎	ホームページにて情報発信を行っており、地域の方やご家族から好評をいただいている。				地域の自治会の祭りなどに、法人の介護支援専門員と参加協力して、介護相談を行うなど、地域住民が気軽に相談できる場を設けている。日頃から、市内にある社会福祉法人との相互交流が図られ、利用者も一緒に行事やイベントに参加している。また、地域の中学生との交流のほか、西条市にある小学生ダンスチームにダンスを披露してもらったりするなどの幅広い交流も図られている。また、市行政や地域包括センターなどの関係機関との良好な連携も図られている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の自治会まつり等に参加し介護相談を行っている。		△	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	他法人や地域の学生を招いたイベントを随時行っている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	毎年実習生やボランティア体験の受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のイベントの準備や片付け等に積極的に参加している。			◎	